横浜市立 浅間台小学校　　令和8年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

大地と共に育つ子　～感じる・学ぶ・未来へ～

【感 じ る 力】　人や自然とふれあい、感じる力　（徳）
心を耕し、体を育む力　（徳）（体）

【学びに向かう力】　めあてをもち、学び続ける力　（知）
学び合い、学びを広げ、深める力　（知）

【未 来 を 創 る力】　生き方に学び、自分の生き方を見つめる力　（公）
夢や希望をもって、まちに生き、社会とつながる力　（公）（開）

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
〈問題解決能力〉 〈コミュニケーション能力〉 〈社会参画力〉	生活の中から問題を見つける力　自分の考えをもち、言葉にする力 やりとりができ、考えを出し合う力　自分ごととしてとらえ、意欲をもって動く力

中期取組目標

本校の豊かな自然環境やまちの特色を活かした「三耕教育」を実践し、子どもが夢や希望をもってなりたい自分をデザインしたり、まちの一員として発信したり、社会とつながっていることを実感できる学校を目指します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
生きてはたらく力		①未来に向かって自己実現していく子どもを目指し、子どもが主体的に課題解決できる単元づくりに取り組む。 ②基礎基本を基に、自ら問題を見つけ解決する力（知耕）をはぐくむため、学習や生活の中で探求心を育て解決力を身につける指導を工夫する。 ③個別最適な学びの可能性や課題について研修を通して共有し、指導力の向上及び授業改善につなげる。
担当	A：学力向上・研究	

学力向上に関わる本校の状況

〇重点研究では、子ども自身が「思い」や「願い」といった明確な目的意識をもって学習を始め、単元のゴールをイメージして、自身がどのような力を身に付けるべきか、見通すことができるよう、具体の姿をイメージしながら単元づくりをブロックで検討し、学年で歩調を合わせて行ってきた。研究を通して、児童が必要感をもって学習に向かう姿を、共有することができた。引き続き、単元開発を継続し、総合的な学習の時間も含めて、地域の材や強みを生かした必要感のある学びが生まれる単元づくりの重要性を感じた。

〇基礎基本の定着を図るために、曜日を決めて朝学習の時間を有効に活用した。各学年に応じて、漢字・計算を中心に、既習事項の復習に取り組むことができた。

〇令和7年度の学力学習状況調査では、多くの教科で市の平均を上回り、学力の向上が認められる。特に重点研究で取り組んでいる国語では、漢字の読み書きや心情の把握、適切な語の選択などの正答率が高く、日頃の学習の積み重ねが感じられた。また、漢字の学習に対する意欲も高い。説明文を読んで内容を理解したり、言葉から得られる情報から考えをめぐらせたりする能力については、引き続き指導を重ね、伸ばしていきたい。読書の習慣については、月曜日の朝の読書タイムを中心に身につけさせたい。また、　生活意識調査からは、社会のきまりや人との約束を守ることの大切さについて多くの児童が意識している。家庭学習についても意欲的に取り組んでいる児童が多い。自己肯定感が低い児童については、様々な学習活動の中で、教職員の共通理解のもと、様々な経験を重ねることで自分に信信をもてるような支援を行っていく。

今年度の目標

未来へ向かって自己実現していく子どもの育成

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	①地域の材を職員間で共有し、児童の実生活とつながりのある単元づくりを行う。 ②児童に身に付けたい資質能力を児童の実態や学状の分析から学年・ブロックで確認し、年間指導計画を見直しながら地域の材を活用した単元が他教科と関連をもって進められるよう、カリキュラムマネジメントを行う。 ③国語科を中心に、基本的な単元計画や評価計画、言語活動について学び、自己決定しながら学習することができる授業づくりを行う。
下半期	①地域の材を生かした学習の中で、児童にとって必要感を伴った学習活動を展開していく。 ②学習のゴールやねらいが児童にとって明確で、ICT機器を一人ひとりの課題に応じて活用しながら主体的に学習に取り組む授業づくりを行う。 ③地域・保護者とのかかわりの中でいろいろな生き方や考え方にふれ、自己肯定感を高め、未来の自分に希望をもてるよう、キャリア教育の視点を入れた授業づくりを行う。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野		具体的取組
豊かな心		①道徳年間指導計画をもとに、ふれあいや体験を重視し、実感を伴う道徳の授業を充実させ、道徳的価値を十分に味わえるようにする。 ②人やものにふれる本物の体験を重点的に取り入れ人との関わり合いを大切に授業づくりに取り組む。 ③地域とのつながりを校内で共有する。
担当	B：特活・人権（道徳）	

豊かな心に関わる本校の状況

豊かな心の育成について

〇「マルシェ」や縦割り活動、路耕など、人と関わる活動を年間計画に位置づけて実施した。各学年で、教科のつながりを明確化・共有し、進化・統合をする機会を設けるように見直しを図っていく。

〇本校では、外国語・外国語活動のカリキュラムに基づき必然性のある授業づくりに取り組んできた。学習に対する児童の様子が前向きになり、より英語に慣れ親しみ、コミュニケーションを取りたいという児童も増加したと考える。オーストラリアのエメラルド小学校との交流を通して、よりコミュニケーション能力を高めていく。

今年度の目標

ひととのふれ合いや体験のなかで、相手意識をもち、社会とつながる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	①「マルシェ」や縦割り、路耕など、人と関わる活動を道徳年間指導計画に位置づけて、効果的に実感を伴う道徳の授業を充実させる。 ②教科との関連性を図り、本物の体験や人との関わりに重点を置いた授業づくりの改善を図る。 ③全学年、年間を通してオーストラリアとのオンライン交流を試行し、異文化や自国の文化への気づきを深める。全校で交流を進められるような年間計画を図る。
下半期	①人と関わる活動を通して、道徳的価値を味わえるように、次年度に向けて年間計画を改善していく。 ②人との関わりや本物の体験で学んだことを発信し、学びが深まるようにする。 ③様々な学年でのオンライン交流を実施し、長期的に交流が行えるように内容を決めていく。全学年でのより必然性のある外国語・外国語活動を目指す。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野		具体的取組
健やかな体		①一校一実践（長なわ・短なわ）の年間計画を立て、体力の向上を図る。 ②養護教諭による保健指導や学校保健委員会の取り組みを通して、児童の健康に対する意識を高める。 ③浅間台小マルシェの取組目標を共有して計画的に栽培活動に取り組み、児童が自然の恵みや自分を取り巻く人々へ感謝する気持ちを保護者や地域に主体的に発信できるようにする。 ④地耕の栽培活動と食育を関連付けて、食育のカリキュラムマネジメントおよびSDGsを推進する。
担当	D：体力・健康	

健やかな体に関わる本校の状況

〇新体力テストの結果の分析を行った。日々の「外遊び」の推進を継続をし、体力向上を図った。体力テストの結果でも、横浜市の平均を上回っており、日々の活動が体力づくりにつながっている。

〇養護教諭による保健指導、学校保健委員会は、オンラインで行い、身体や心の健康について意識を高めた。また、全校で健康について考えたり話し合ったりしながら、健康に対する意識を高めることができた。

〇地耕の栽培活動を食育と関連付けた。食育全体計画の見直しを図った。自分たちで作った野菜を自分たちで消費する「自産自消」を目指して取り組むことができた。食育としての関連授業を行ったり、地域の人々や保護者の方々に販売したり、栽培活動のまとめをすることができた。

今年度の目標

一校一実践（長なわ）や外遊びの推進により、体力の向上を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	①一校一実践（長なわ・短なわ）の年間計画をもとに、運動委員会が中心となって、全校児童で日々の練習に取り組む。 ②健康診断時の養護教諭による保健指導や、学校保健委員会の取り組みを通して、児童が一年間のめあてを決め、健康に対する意識を高めらるようにする。 ③地耕の栽培活動と食育全体計画の関連を意識したカリキュラムマネジメントを推進する。
下半期	①一校一実践（長なわ・短なわ）の年間計画をもとに、運動委員会が中心となって、全校児童で日々の練習に取り組む。 ②健康診断時の養護教諭による保健指導や、学校保健委員会の取り組みを通して、児童の健康に対する意識を高めてきているがさらにその取り組みを継続していく。 ③夏野菜の栽培活動では地域と連携しながらマルシェを開催する。下半期も秋・冬野菜を栽培し、食育全体計画の関連を意識したカリキュラムマネジメントを推進する。